



あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

制定から六年。 九月十九日の「保線安全の日」に 全道の保線職場で各種取り組みが行われました

J

R北海道が、平成二十五年九月十九日に発生させた函館線大沼駅構内での貨物列車脱線事故と二連の事象。これらの出来事を風化させないために、この日を「保線安全の日」と定め、全道の保線職場において「安全」についての振り返りと、コンプラ

イアンスの浸透化を図る取り組みを毎年継続して行っています。「安全計画2023」がスタートした今年度は、積み上げてきた安全文化の「継承」とさらなる安全性の向上をコンセプトに実施しました。たとえば、札幌保線所では、保線所に加え、札幌、江別、島



マクラギ交換の作業手順などを確認

松、小樽、倶知安、石狩当別の六つの保線管理室とグループ会社・協力会社が参加し、二丸となつて「保線安全の日」の主旨を踏まえた取り組みを実施。冒頭、島田社長から「安全とはどういうことか。それは、命を守ることです。お客様の命、社員の命を守ることです。命を守るためには、どういうことをすれば良いのか、本日はそれを考える日にしてほしい。安全計画2023を踏まえ、取り組みを二歩一歩進めるためにも、その第歩として今日一日に取り組んで欲しい」とのあいさつがあり、今年度の取り組みがスタートしました。

午前は、安全をテーマとした体験談を参加社員が発表した後、グループに分かれてディスカッションを行うなど、安全について改めて考える時間となりました。また、午後からは「線路の補修工事後に列車を安全に運行させるため行う確認作業の現地訓練」「線路の異常を発見した際の



活発に意見交換がなされたグループディスカッションの様子

情報伝達訓練」など、一人ひとりが実践を踏まえた訓練を体験しました。

現在、「保線安全の日」制定のきっかけとなった事故以降に入社した社員は保線系統だけでも約三五〇名に上っています。

JR北海道では、再発防止への思いを風化させないことと、二連の事象を知らない新入社員や経験の浅い社員にもしっかりとその意義を伝え、安全意識の徹底を図ることを目的に、今後もこれらの取り組みを継続して行うこととしていきます。

J